

地方センター校での日本語教育実習  
—文学部に設置された日本語教師養成課程の場合—

馬場良二（熊本県立大学）

夏休みの輝く三日間、楽しい宇宙

豊かな言語環境  
友だち  
異文化の子どもたち  
先生  
大学生のお兄さん、お姉さん

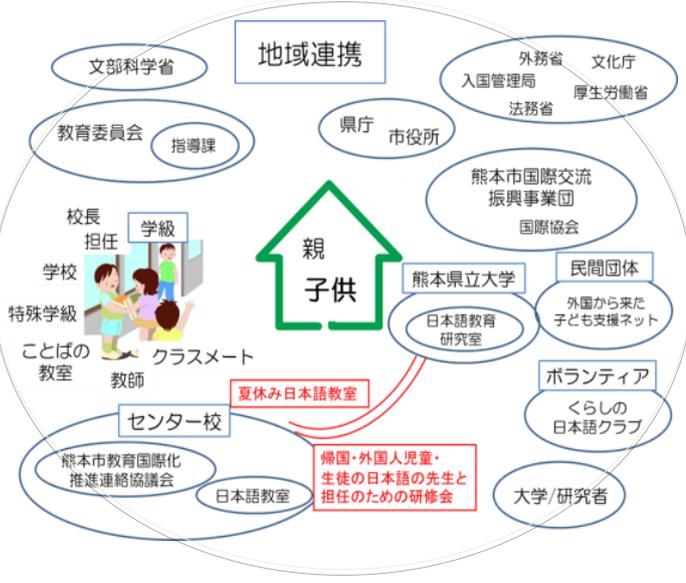
子どもは天才  
つもり／はず、のだ、と／たら／ば  
テンス、アスペクト、ヴォイス、モダリティ  
世界中のどんなに優秀な言語学者より、  
どんなに高邁な理論より

心をひらいて  
楽しい授業  
ゲーム  
休み時間も遊んで、話して

実習を終えて  
楽しかった  
色々な国籍の子どもたちと仲良くなれた  
折り紙が手元に残った  
指導案通りに行かないという  
ことがよく分かった

先生方からの感想

- ・子どもはお兄さんお姉さん先生が大好きです。子ども達が目をキラキラさせて勉強していました。
- ・教材をたくさん用意して、子どもは飽きることがなかったです。
- ・指導案は、子どもの実態に合っていなかったところもあるが、目の前の子どもに合わせた内容になっていたところがよかった。
- ・休み時間も遊んだり、話したりすることにより、子ども達の心がほぐれ、それが授業につながった。
- ・学生らしい元気のいい授業で良かった。
- ・この経験を通し、いろいろな視点を持てるようになって、これからの勉強に生かしてほしい。
- ・1時間ごとに先生が替わり、いろいろな楽しい授業を受けることができ、子ども達は喜んでいました。



先生からの指導

- (1) 子どもの実態と、実態に合った言語活動の構成  
グループCでは、日本語学習歴1年以上の子どもが多かったのに、指導案はもっと初歩的な内容が見られたので、子どもたちが話したり、聞いたりする活動にすることを話した。
- (2) 板書の仕方・・・構造的な板書  
本時のめあて、今日使用する文型、絵カードなどを見やすく板書したり、貼ったりすること。また、授業でどんな学習をしたかがわかるように構成することをアドバイス。
- (3) 教材・教具の選択  
買い物ごっこを通して学習という指導案だったので、お店の場作りや模型のお金を使用するなど、子どもたちが楽しめるような教材・教具を提案し、黒髪小にあるものを提供。

